

祝 神戸っ子 13周年



KOBECCO 13th

株式会社太陽神戸銀行

取締役頭取 石野 信一
神戸市生田区浪花町五十六
電話本店(〇七八)三三二一八二〇一

住友信託銀行神戸支店

取締役支店長 酒井 督介
神戸市生田区栄町通一丁目二番地
元町・大丸西向い
電話(〇七八)三三二一一三二一(大代表)

竹馬産業株式会社

取締役社長 竹馬 準之助
神戸市生田区元町通三丁目四五三
電話(〇七八)三九一一六六五一

小泉製麻株式会社

取締役社長 小泉 徳一
神戸市灘区新在家南町一丁目二の一
電話(〇七八)八四一一四一四一

玉井商船株式会社

取締役社長 玉井 操
神戸市生田区明石町四四
電話(〇七八)三三二一一六〇一

日本香料薬品株式会社

取締役社長 小野 一夫
神戸市葺合区臨浜町三丁目三の二
電話(〇七八)二二一一九七五(代)

ビオフェルミン製薬株式会社

専務取締役 小野 忠雄
神戸市長田区二番町二丁目一番地
電話(〇七八)五七五一一五五〇一(代)

兵庫トヨタ自動車株式会社

取締役社長 瀧川 勝二
神戸市葺合区磯辺通四丁目七の二三
電話(〇七八)二五一一五一五一

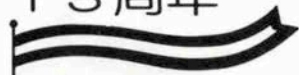
兵庫日野自動車株式会社

取締役会長 後藤 末二
神戸市生田区相生町二丁目三三一
電話(〇七八)三五一一一三八二(大代表)

UCC上島珈琲(株)本社

代表取締役 長上 島 忠雄
神戸市生田区多聞通五丁目三
電話(〇七八)三四一一三六〇六

祝 神戸っ子 13周年



KOBECCO 13th

正興産業株式会社

取締役社長 秋田 博正

西宮市久保町二の一多聞ビル
電話(〇七八)二二二二七〇一

光印刷株式会社

取締役社長 南部 圭三

西宮市津田町三丁目六
電話(〇七八)三六一一五五一

柏井紙業株式会社

取締役社長 柏井 健一

神戸市生田区加納町四丁目一番地
電話(〇七八)三二二一三六〇一

角南商事株式会社

取締役社長 角南 猛夫

神戸市葺合区小野柄通八丁目一番
三宮ビル8F
電話(〇七八)二五一五五一

石野証券株式会社

取締役社長 石野 成明

神戸市生田区栄町通一丁目八の二
電話(〇七八)三九一〇〇〇一(代)

近藤忠商事株式会社

代表取締役 近藤 忠吉

神戸市生田区加納町二丁目三〇
電話(〇七八)二二二一四三二一

ウシオ工業株式会社

取締役社長 牛尾 吉朗

神戸市葺合区浜辺通五丁目二の一
神戸商工貿易センタービル18F
電話(〇七八)二五一一六五一(代)

神戸船渠工業株式会社

取締役社長 玉井 新吉

神戸市兵庫区西出町三三九番地
電話(〇七八)六七一一三三〇一(代)

田崎真珠株式会社

取締役社長 田崎 俊作

神戸市葺合区旗塚通六丁目三一〇
電話(〇七八)二二二一三三二一

乾汽船株式会社

常務取締役 乾 英文

神戸市生田区海岸通八番
電話(〇七八)二二二一三三六六

祝 神戸っ子 13周年



KOBECCO 13th

島文工業株式会社

取締役社長 島田文六

神戸市灘区岩屋中町四丁目二の七
電話(〇七八)八七一五一一八一

三宮ビルディング

森本倉庫株式会社

取締役社長 森本楨二

神戸市葺合区小野柄通八丁目一番地
(三宮ビル事業部)
電話(〇七八)二二二一九三八一

関西貿易株式会社

代表取締役 竹田剛男

神戸市兵庫区出在家町一二五
電話(〇七八)六七一一六〇二一

株式会社熊田工務店

代表取締役 熊田惟夫

神戸市葺合区琴緒町五丁目二の二
協和ビル4F・5F
電話(〇七八)二四一八八八八〇

樽本産業株式会社

取締役副社長 樽本久

神戸市兵庫区川崎町九三
電話(〇七八)六七一一六三九七

神戸金型工業株式会社

代表取締役 木津雅敏

神戸市長田区東尻池町三丁目一五
電話(〇七八)六八一一一二二二〇

泉酒造株式会社

取締役社長 泉仙介

神戸市東灘区御影塚町一丁目九の六
電話(〇七八)八二一一五三三三

株式会社大窪鐵工所

代表取締役 大窪馨

神戸市葺合区脇浜町三丁目七の五
電話(〇七八)二二二一一五八八〇

株式会社淡路屋

取締役社長 寺本淳巳

神戸市生田区相生町二 神戸駅構内
電話(〇七八)三五一一一六八二

株式会社健乳舎牧場

代表取締役 奥和夫

神戸市兵庫区塚本通三丁目十一の八
電話本社(〇七八)五七五〇〇八一 代

祝 神戸っ子 13周年


KOBECCHO 13th

オールスタイル株式会社

取締役社長 川 上 勉

神戸市生田区伊藤町一丁目二
電話(〇七八)三三二一〇二一

株式会社リーベ

代表取締役
社長 飯 田 守

神戸市葺合区磯辺通一丁目二
電話(〇七八)二五一三三三

株式会社ファミリア

取締役社長 坂 野 通 夫

神戸市生田区西町三六 三菱信託銀
行ビル8F

電話(〇七八)三三二一〇三四五

株式会社パール

取締役社長 松 岡 賢 蔵

神戸市生田区加納町二丁目一九
電話(〇七八)二四二二四六八

株式会社ワールド

取締役社長 畑 崎 廣 敏

神戸市葺合区八幡通四丁目二五の一
電話(〇七八)二五一五三一

モニクレース株式会社

代表取締役
社長 雨 宮 寛 治

神戸市葺合区浜辺通七丁目一の二
電話(〇七八)二二二二七八七
二五一七〇六一

ニッシン株式会社

代表取締役
社長 酒 井 利 保

神戸市葺合区生田町一の一
電話(〇七八)二二二一六〇一

ニホンローソク株式会社

取締役社長 樋 橋 秀 一

神戸市生田区元町通三丁目二四
電話(〇七八)三三二一七一六一

神戸地下街株式会社

代表取締役 宮 崎 辰 雄

神戸市生田区三宮町一丁目一番地
電話(〇七八)三九一一四〇二四代

凸版印刷株式会社

常務取締役
関西支社長 田 中 貞 司

大阪市福島区海老江上四丁目二三
電話(〇六)四五八一一二二五一

祝 神戸っ子 13周年



KOBECCO 13th

菊正宗酒造株式会社

取締役社長 嘉納 毅 六

神戸市東灘区御影本町二丁目七の一五
電話(〇七八)八五一〇〇〇一

株式会社兵庫相互銀行

取締役社長 長谷川 寛 雄

神戸市生田区三宮町一丁目六五
電話(〇七八)三三一一八一五一

株式会社マツダオート兵庫

取締役社長 橋本 重 雄

神戸市兵庫区湊町三丁目三
電話(〇七八)五七六一五〇六一

麒麟麦酒株式会社神戸支店

支店 長松 下 親 次

神戸市葺合区御幸通四丁目八の一
電話(〇七八)二五一八一一五一

金露酒造株式会社

代表取締役 大塚 和 三 郎

神戸市東灘区魚崎南町五丁目五一四七
電話(〇七八)四三一一一六三五代

有限会社

クレセント・インターナショナル

代表取締役 王 柏 林

神戸市生田区下山手通三丁目八の九
電話(〇七八)三九一一四四四一代

株式会社神戸日建

取締役社長 小野原 啓 次

神戸市葺合区御幸通三の一
電話(〇七八)二五一三三二五

兵庫ボルト産業株式会社

代表取締役 長 中 野 賢 治

神戸市長田区梅ヶ香町二丁目七の五
電話(〇七八)六七一一四八八七九

ワシオ産婦人科診療室

室 長 鷺 尾 隆

神戸市生田区元町通一丁目二〇の七
石原ビル
電話(〇七八)三九一一五九一九

神戸テレフォンサービス株式会社

代表取締役 山下 駿 児

神戸市葺合区生田町二丁目四
電話(〇七八)二四一一八八八一

随想 三題



〈白天神雛／橋本武氏所蔵〉

雛祭り

橋本 武

△私立滝高等学校教頭△

雛祭りといえば、人々は十五人揃いの雛段を連想する。そしてあの豪華ケンランたる段飾りに幻惑されて、つつましくも心豊かな雛祭りのあったことを、忘れようとしている。

私が郷土雛のコレクションをはじめたようになったのも、それほど深い理由があったことではない。戦後世の中が落ち着いて、自由な旅行が楽しめるようになった時、押入れの片隅から見つけたした天神人形に、曾て抱いた郷土玩具への興味をよびもどされたことが、直接の動機といえはいえる。

郷土人形の生産目的が、初節供の雛段飾りに集中しているせいもあって、郷土雛は割に集めやすいはずのもののだが、全国的に見ると、農村地帯での雛祭りには、男女雛の飾られることはむしろ稀で、一般に天神雛が幅を利かせており、作品にも秀抜なものが数多く見られる。

出雲地方に「白天神」という立派な天神雛がある。久しい以前から廃絶して、収集仲間の垂涎の的であり、幻の人形のように思われていた。たまたま春休みの旅行で出雲へ行くことになり、親しくしている卒業生の紹介で、天神飾りを見せてもらった。私と同年の素封家のお宅であったが、掃除の行届いた奥座敷の、明るい障子の光りをうけた十体ばかりの天神には、落ちついたすがすがしさがあり、静かな農村の空気によくマッチしていた。

この天神雛は、男女児ともに初



私設人形館「青蛙館」での橋本先生

節供の祝いものとされ、男児の場合には張子の馬、女児の場合には女雛を添えるのだとも聞いたが、女雛との共飾りは実際には見えない。張子馬は台車ともに三十センチほどもある立派なもので、台車に仕掛けがあつて、曳くとピンピンと音を立て、首を上下に振るようになっていた。それで子供の慰みになってこわされることが多く、私が入手できたような、完全な姿で残っているのは極めて少ない。

白天神は出雲独特のもので、松江から米子あたりへいくと赤ものになつてしまう。十年ほど前に、倉吉製の赤天神が二百個ほど雛市で売られたことを聞いたが、天神雛の泥くさい素朴な美しさは、ふるさとを失った都会の収集家を喜ばせはしても、逆に都合風に染まりつつある土地の人の興味と関心を失いつつある。

地方色豊かな手作りの郷土雛、たとえば鹿兒島の糸雛、沓岐や甘木の八朔雛、鳥取の田舎雛のたぐいは、好事家の好奇心を満たすためにだけに復元されたといつてもいい。鳥取の市中や用瀬に残る流し雛の風習も、季節になればニュース写真などで目にすることも多いが、演出臭の強いのはどうもいたさかねる。

もうだいぶん以前のことになる

が、春の旅行で泊り合わせた紀州路の民家で、薄光の居間の用簾筒の上に土の女雛を一体だけ飾り、それに菜の花が供えてあったのを見たときの深い感動を、私はいまだに忘れることができない。

心と口と

行いといのち

菅野 聖子

〈画家〉



見るからに活気にみちた最初の出会い。

硝子のショウインドウをへだてて、雪の日のキスゴッホ。

紙粘土でつくった金平糖のエンゲージリング。

ペゴニヤの花が右の耳をかざる。黄色いトマトの花が左の耳ではじらう。

麻ヒモとボール紙でつくった、ぞうりをはいて、

「四丁目の角まで行ってこい」「パンヤの角まで行ってこい」

小雪の道をひた走る。

「あたし、大きくなったたら、ハイドンのお嫁さん。ハイドンのお嫁さん。ハイドンの……」

プリプリプリイツ。

調子が良すぎた。あまりにも。

正六角形の対称が何百万。

ドアしめて。鍵しめて。

パチャンとして。

切り落したワンピースのようを数えた。

「ひょっとしたら？」

「ピッタカピッタカ

プリプリプリイツ」

「あまいよ。」

あまいよう。カナリヤの羽」

「ね。おぼえたの？ おぼえないの」

「だいたいおぼえた」

「きよう、うちわのような葉っぱ

作ったの」

「いちようでしょ？」

「開いてみたらちようちよ」

「もひとつつくりたい」

「もう出来ない」

「走れ!! 走れ!!」

マフコの左手にひもをむすぶ。

「チヨビチヨビあるいてもいいのよ」

引き合って。ぶつかり合って。

正六角形の対称が何百万。

「こつちのレンゲがきれい」

「こつちのレンゲがきれい」

近づいてくる、もえるような菜の花畑。

無数の線の中に呼びおこそうとしている。

追いかけたら逃げてしまふ。ひと吹きのおのち。

「一丁目のベンチで蟬が鳴く」

「俺は六丁目の停留所」

「切符あげる」

「あつ。逃げちゃった。逃げた」

「蟬の馬鹿」

「アブラ一匹。クマ一匹。ニイニ

イ一匹」

「どうしてくれるのふられ役」

とどのつまりは指くんで。

腕でつくったU字形。

しずかにおろしてさようなら。とたんに。

「おーう。」

ジニジニジニ。ジニ」

野原にうつった飛行機の影、捕

虫網でつかまえた。

「四丁目の角まで行ってこい」

小雪の道をひた走る。

五叉路に立つてる凹面鏡。

明白な事実と、謎の季節のひし

めく中で、わたしは今生まれたの。

故宮博物院と

花時計

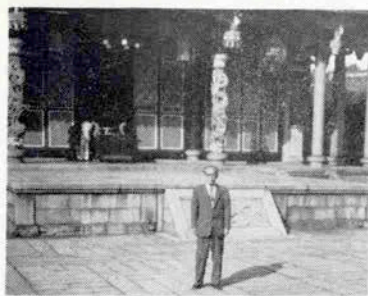
青木 重雄

△白鶴美術館▽

昨秋明石・千尋窯の小倉尋富さんらと共に台湾へ行った目的は、むろん故宮博物院はじめ国立歴史博物院、中華博物館（私立）などの美術館や地元の諸窯を見学するためだったが、着いてみてその自

然の美しさと日本とあまりにもか
け離れた静かな各地のたたずまい
にまず驚かされて、こうした、い
わば日本の大正末、昭和初期にも
似たいくぶんのんびりムードがま
だ近隣の国に残っていることを膚
にじかに感じただけで内心のうれ
しさを隠すことができなかった。

故宮へさっそく名品拝見と出か
けたが、無数に並んだ絵画、玉、陶
磁、青銅器の中でもやはり私自身
の大好きな陶磁のみごとき、特に
宋代の青磁のすばらしさにあつと
息を吞んで我を忘れた。かねて予
期はしていたものの予想を越える
美しさに中国青磁についての認識
を再び改めねばならぬと反省させ
られた。小山富士夫氏や谷川徹三
氏などがかねて激賞していたが、
あの北宋汝官窯の青磁器の冴え切
った淡藍色の美しさは、全く神秘
的なトーンにあふれた名工の至芸
の結晶といえる。鉄釉と還元炎と



孔子廟での筆者

陶工の執念が生んだ絶妙の神品で
ある。わが国にも二点ほど将来さ
れているが、世界に残る三十余点
のうちの二十三点が故宮に集まっ
ているのだから、世界陶磁の誇り
と呼ばれるのは当然である。漢代
以来の中国の政治史の中でもこれ
ほどの逸作は他に求められない。

このことを如実に味わうことがで
きただけで、台湾行きの成果は八
十五パーセント果たされたも同然
だった。青銅器群の各種各様の陳
列ぶりも印象的だったが、私の勤
務する白鶴美術館の緑青のすばら
しい百余点の精品を見慣れている
だけに、青磁ほどの感嘆の念は起
こらなかった。

汝青磁得て 何もうことなし
秋の院

次ぎに私は台北の陽明山陽明公
園（山岳公園）に登ってみて、こ
この清明な自然の美しさと静けさ
に、前にも言ったように完全に心
を奪われた。蔣總統用の会場を取
り巻く公園にはいたるところ黄色
いコスモスや（残会ながら名不
明）真っ赤な花々が咲き乱れ、あ
ちこちの谷間では小滝がキラリと
光り流れ落ちる。それにゴミや紙
くずのないこと。もともと「十元
（約七十円）の罰金」という注意
書きそあったが、日本中ほとんど
の公園や山々に塵埃が捨てられて

いることを思い出して、「文明国」
の現実がいまさら悲しく考えられ
た。ただ一つ、わが神戸市との共
通品があったのは花時計を見つけ
たことだ。市役所横のものより一
回り大きく、周囲に水をたたえた
帯をめぐらせたこの花時計が神戸
のものより早く作られたか遅かつ
たかは知らないが、この花時計の
横に立ちながら、しばらく私は心
を落ちつけて雄大な山上公園の美
しさを改めて見渡していた。

秋雨いま ひそかに過ぎり 花
時計

最後に孔子廟について一言触れ
させてほしい。最近中共の周首相
が孔子の思想はまつ殺されねばな
らぬ——といったとか報道されて
いたが、批判はとにかくこの廟の
清潔なたたずまい、廟の色彩の美
しさは印象的だった。台湾には極
彩色の寺院は他にいくつもある
が、屋根、堂廟、白い庭、細い参
拝道などが織りなす構成美は日本
ではあまりお目にかかれないやは
り異国風の寺院風景である。ただ、
門をはいつた通路に沿って大陸反
抗への立て看板がずらりと並べら
れているのを見て、「戦中呼称」
の現実を引き戻されたしだいだっ
た。タイペイから淡水、金山、基
隆への牧歌的見物も楽しかった。

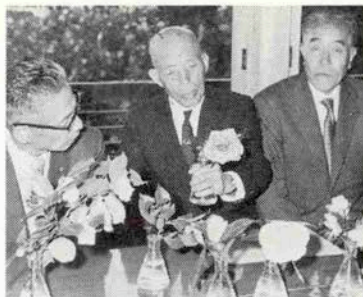
■ある集いその足あと

コーベ・カメリア

ソサエティ

樽本 清

〈コーベ・カメリア・ソサエティ幹事長〉



昨年秋のツバキ展で丹精のツバキをめぐる

私たちのコーベ・カメリア・ソサエティ(KCS)は会員一五〇名。神戸阪神間のツバキ愛好者を中心に、北は秋田、新潟から南は大分、熊本まで日本全国に及んでいます。KCSは、地方にありますが、KOBEというインターナショナルな都市の性格を反映して、最もナウな会、ユニークな会として、日本の数あるツバキ愛好団体から一目おかれています。中国、韓国、オーストラリア、イギリス、イタリア、ニュージーランドなどに会員を持つのはKCSの

評価がいかに高いかを証明していると私たちはうぬぼれています。

特に、国際ツバキ協会会長、イタリアツバキ協会会長を客員に擁し、神戸の誇る生け花芸術家・小原豊雲家元が本会の名誉顧問であることも私達の自慢のタネです。

毎年三月末か四月第一週の土、日曜、県民会館の大ホールでツバキ展を開き、秋は、会員同志の親交を深めるのに重点を置いた秋のツバキ展を開いています。

女性会員の多いためか、華やかでとてもアットホームです。ツバキの話がいつのまにやら嫁やり、婿とりで発展することもしばしばです。春のツバキ展は花も多くバラやボタンの花のようなツバキをみて「これツバキですか」と驚く方が多いのは、ちょっと誇らしいような気持と、ツバキの花をあまりにもご存知ない悲しさで複雑な気持にさせられてしまいます。

ツバキと同じツバキ科に属するサザンカが神戸の市花に選ばれたのも、うれしいような悲しいような、うれしい気持は当然として、悲しいのにはちょっとワケあります。まず一つには、宝塚市が神戸より数年早くサザンカを選んだことで、後陣を拝しているようでケツたくそが悪い。さらには、六甲の三名花にツバキが入っていないながら、なぜツバキを選ばなかったの

かと、本当にくやしい思いをしました。日本の生んだ花木の女王は世界的にみてもサザンカよりはツバキでしょう。欧米・太平洋州ではものすごいカメリア・ブームで、毎年新花が続々と誕生しています。黄色いツバキ、青いツバキ、芳香を放つツバキ、ツバキは世界の人々を、再び魅惑しはじめています。

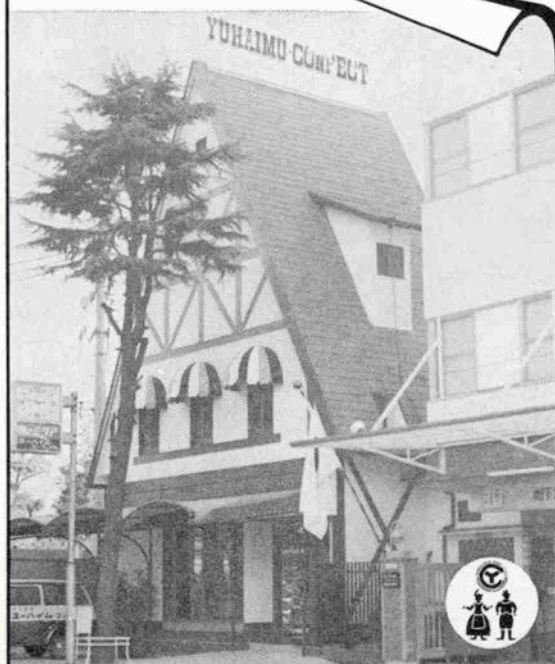
私たちは会員の間では中国原産のトウツバキを愛育することが一つの夢で、そのうちの幾十種類かは実際に育てられています。KCSの会長・安藤芳顕さんは世界的な権威者で、勢いKCSは日本のトウツバキのメッカとなりました。茶花として発達してきたワビ、サビの花・ツバキも、ファッショナブルなマチKOBEでは夜会の花、サロンの花として変身しつつあります。私たちはチョンマゲ時代そのままのツバキを否定しないまでも、けっして満足しておりません。洋風化指数No.1のKOBEで独り、ツバキだけが百年も、二百年も前のままでとどまることは、風土が許さないともいえます。

ともかくKCSは、けっしてむずかしいことを論じる会ではありません。あくまでもツバキをなかだちに、ワイワイ楽しむ会です。

いかがです、あなたもJoin KCS!

熊内本社売店

誕生



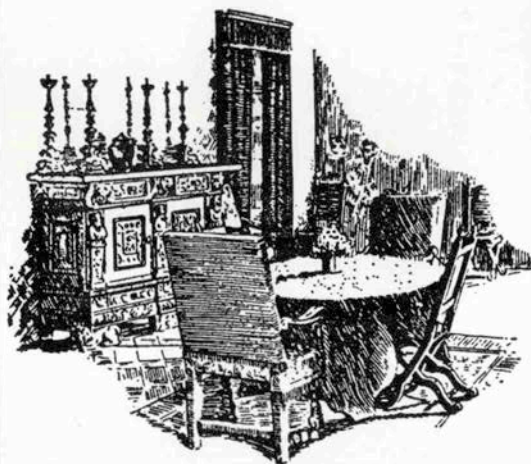
* 真心こめたおくりものに *
バウムクーヘン・クッキー・各種洋菓子

北欧の銘菓

ユーハイム・コンフェクト

■本社・工場・熊内店 神戸市黄合区熊内町1(市立美術館東隣) ☎221-1164
■三宮センター街本店 神戸三宮センター街(洋菓子・喫茶・レストラン) ☎331-2421
■さんちが店、神戸大丸・そごう・阪急店、三越・元町店、神戸デパート内

欧風家具・婚礼家具



設計・創作

永田良介商店

神戸市生田区三宮町3丁目 大丸前 TEL神戸(391)3737
(代表)

東京店・東急百貨店 {日本橋店内6階 TEL03(211)0511
本店(渋谷)7階 TEL03(462)3180}

工場 神戸市垂水区多聞町 小東山975-35
神戸木工センター TEL(078)706-5913

□れんさいずいそう〈最終回〉

早春譜

楠 本 憲 吉

△俳人△

え・貝 原 六 一

（行動美術協会々員）

春は名のための風の寒さや。

谷の鶯 歌は思えど

時にあらずと 声も立てず。

時にあらずと 声も立てず。

「足長き少女に習う早春譜」という作者の名は忘れたがそんな句があった。この「早春譜」の作詞者は吉丸一昌。作曲は中田 章。大正二年二月の作で『新作唱歌(三)』にのっている。

吉丸一昌作詞の『新作唱歌』は全十冊、明治四十五年から大正三年までの間に出版され、後年の童謡運動の先駆となるものであった。その中でもこの『早春譜』は、梁田貞作曲の『お玉じやくし』とともに著名で、今でも小学唱歌として歌われているのである。



さて、二月四日の立春を過ぎると暦の上ではもう春である。しかし、現実はまだまだこの歌どおり「春は名のみ」であって冬の真最中を思わすきびしい寒さが続いている。

日本人の古い考え方は、暖かくなったから春がくるのではなく、暦の上で春が来るから暖かくなるのである。現実の自然よりも暦尊重、暦優先の生活であったわけだ。

けれども自然界ではひそかに春の陣痛が始まっている。ウメは早くもひらき始め、ジンチヨウゲのつぼみが顔を出す。

そして立春後にはじめてやってくるお客さんが「春一番」である。日ましにつのろうとする南の暖気と、いつまでも居坐ろうとする北の寒気とが、日本海で大げんかをするのが日本海低気圧で

ある。

俳句に「日脚伸びると」という季語がある。冬至をすぎると、一日に畳の目一つづつ日脚がのびることをいった、微妙な感覚の季語である。

日脚伸ぶ今年為すこと多きかな

虚子

阪急沿線の岡本には山麓梅林があつて、梅見客に賑わつたものだが、次第に枯れていつの間にか姿を消し、宅地になつてしまつた。昭和五、六年がピークではなかつたか——。その頃、私は小学生で、岡本駅前で「灘萬」という食料品店を父がやつており、食堂もあつて、梅見頃には凄く混雑したことを覚えてゐる。どういふわけか親子丼が飛ぶように売られていた。

神戸の早春といへば私はすぐ「山火事」を思い出す。

国鉄摂津本山駅あたりから、北に六甲山を見ると、黒い山脈の中腹に一点だけまたいたいてる灯が見えるに違ひない。あれは保久良神社の常夜燈で、昔から「灘の一つ火」といつて上代から航路標識として親しまれてきたものとされている。

昔から地元の氏子が天王講を作り今なおこの火を絶やすことなく灯しつづけている。

保久良神社の保久良は火の倉をあらわすところから出た言葉で、どんな激しい山火事に襲われてもこの保久良神社だけは焼けないという信仰が村民にあった。

私はこの保久良神社の氏子の一人として少年時代を送つたのであるが、何度も山火事を見、事実、神社のすぐ裏まで火が迫つてきたことも何度

かこの目で見てゐる。——

私の母はこの保久良さんの大変な信者で、何かことがあると、金鳥山の中腹、標高百八十二メートルのこの神社へ約一キロの山道を歩いてお参りしたものである。私が出征中は毎朝五時に起きて私の武運長久を祈り雨の日も風の日も参り続けてくれたのであつた。

私の願ひはこの神社の境内に母のための鎮魂の句碑を建立したいことである。句の方はもう出来ているが、中々決行出来ないでゐる。神主の猿丸さんからも内諾は得ているのだが、物理的な理由で足踏みが続いているのである。

句は、

秋かぜの山脈おのが影いなく

である。

今年こそぜひ決行の年でありたいと年頭に念じたのであるがさてどうなることやら——。

山眠る——

といへば冬の季語。

春は「山笑う」である。六甲の山々の眠りが醒めて微笑みを取り戻す頃、私はひとりで保久良神社に登り、亡き母の魂と対話したいとも念じてゐる。

ふるさとの山と母——月並みな取り合せかもしれないが……。

亡き母いまでも踞める如し千大根

私は母を思い、母を忍んだ句が意外と多い。

花隈の屋根の下

村上 常一朗

戦前の花隈というところはなかなか情緒のある街だったように思う。言わば私の幼年時代の思い出というわけである。父華岳が京都での画壇生活を断ち切り、芦屋のアトリエも閉じて花隈に帰ったのは、昭和二年養父の五郎兵衛が死去し家督をついだときのことである。それまで、つまり大正の終り頃の私たちの生活は何と言っても京都が大部分で時々、芦屋と花隈へ泊りがけで出向いていた。大正末期と言えば、美術品の経済的価値が高まり、大資本の百貨店は競って美術部を設け市場を拡大させていた時代である。父の属していた国展もまさしく最盛期であって、大正十四年には第



〈村上華岳の身佛の不動尊／石野貞雄氏所蔵〉

二部(洋画)を設け会員として梅原龍三郎、川島理一郎らが参加し、評議員では川路柳虹、田中喜作、福原信三が名をつらねる有様であった。今の国画会の母胎である。

京都時代の父は無類の散歩好きだったようだ。両親と一緒に街をぶらぶらと歩いた記憶は鮮明である。しかし最後は新京極の秋田屋で絵葉書を買ってもらって、母と二人だけ先に帰宅することが多かったように思う。母からの文書では画家仲間との交際が広がるばかりで、勉強も画を描く時間も収入も減るばかりであったと言う。夜の野っ原を渡ってくる唄声が夢うつつのなかで聞こえる。甲

高いが抑揚がよくきいた声である。それは父のうたう常盤津なのであった。同志たちとの談論風発、それは波光や紫峰や麦僊であろが上気謙になつていた父は、ひとしきりに母にジョツトオやラファエルの画集を前にして制作の抱負を夜おそくまで語つたそうである。

私は母に伴われて京都から花隈や芦屋によく出かけた。その当時は東海道線もまだ蒸気機関車で京都から随分と時間がかつたように思う。汽車のなかで信玄袋から取り出される手作りの弁当の冷え切つたつめたさがうまかつたし、母と一緒にゐる人力車がたのしかつたことを憶えている。花隈では何と言つても初孫であつた私が主客で大いに歓待をうけた。花隈の屋敷はさして広いものではなかつたが門構えだけは昔日の庄屋の風格を偲ばせた。前庭に大きなあんずの木があつて季節には美しい花を咲かせた。身軽な私はよく木登りをして、たくみに屋根によじのぼつた。登つたり、降り越えたり、下つたりする屋根の形状は思ひのほか複雑で位置の見当を狂わせた。思いもかけないところに空間が出現する。確めるとそれが平素親しんでいる中庭であつたりするのである。屋敷の周囲を店子の長屋がとりまき、そこには若い芸者さんばかりが住んでいた。だから屋根づたいに彼女たちの二階の窓辺に近づくことができるわけであつた。驚いた顔付で「華岳先生の坊ちゃんや」と言つて窓越しに彼女たちの部屋に招き入れられるのであるが、ここでも私は主客で小さな探險家は大いに歓待をうけた。饅頭などを御馳走になり今度は下足を借り何喰わぬ顔で帰館するのである。所有者不明の下足が増えて女中が困つてい

たことを思い出す。女たちの飼っている猫をつれ帰つて虐待したこと、この私の小さな探險は露見してしまつた。祖父も父母も別にとがめる風でもなかつたが、子供心にもやはりやめた方がよさそうな気がした。

花隈の屋敷は紙襖や板戸の至るところに絵がかいてあつた。それらはすべて華麗な花鳥画であつて養父の命で父が描かされたものである。同時にそれは養父の自慢のひとつでもあつたわけである。床の間には「竹藪に狸」が長い間かかつたままであつた。文展の落選作であつたが技巧の熟達した素直な作品であつた。飾りつけはそれだけではなかつた。ティツイアノやボティチェリ、アンゼリコの大きな複製画までがかけられた。養父はその絵を指差しながら、貝殻から生まれてくるヴィナス誕生や受胎告知の意味を客に解説したそうである。養父は庭の一部に離れ屋敷を増築し、そこを華岳の画室にあてゐるつもりであつた。しかし養父は華岳の膨大な蔵書や仮張りや大きな絵具箱、ひとかかえもある絵具皿、石膏像などを見てからは口を閉じてしまつた。結局離れ屋敷は無用となり物置の役しか果さなかつた。そこには華岳の蔵書の一部が積み上げられるだけになつてしまつたが、それを手にとりながら、養父は變つてゆく時代を敏感に膚で感じとり、素直になつていたのであろう。

養父が死去すると父は直ちに建具屋を呼び、紙襖や板戸を取替え、自分の絵を一切合切、見事に焼きすててしまつた。それは何か執念めいた処理の仕方だつたそうである。

(一九七四・二・二・兵庫県北摂開発局長)

倖せはぐくむ
さわやかショコラ



うらかな春の光にさそわれて
陽なたぼっこの昼下り
クインペルが伝えるあたたかさ

Quimper
クインペル

Goncharoff

おんがら屋



きものと細貨

おんがら屋

神 戸

西 店/三宮センター街・電話 331-8836(代)
331-0629
東 店/三宮センター街・電話 391-4303
三宮店/さんちかタウン・電話

東 京

銀座コア店/4階着物コア・電話573-5298(代)
渋谷東急店/5階和装名家街・電話462-3409(直)
日本橋東急店/4階和装名家街・電話211-0511(代)
(内線294)
池袋バルコ店/4階着物小路・電話987-0561(直)